

2011 年度入学試験 (2010 年 8 月実施) 問題 1 解答例

問 1: デカルト座標で成分表示して解くのが簡便。 x 軸, y 軸, z 軸、各方向の単位ベクトル (基本ベクトル) を i, j, k と表記すれば、

$$\begin{aligned} \mathbf{r} &= x\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k} \\ \nabla &= \mathbf{i}\frac{\partial}{\partial x} + \mathbf{j}\frac{\partial}{\partial y} + \mathbf{k}\frac{\partial}{\partial z} \end{aligned}$$

で、 i, j, k 間のスカラー積とベクトル積の規則さえ知っていれば、後は通常の微分と同じ。

(a) $r = (x^2 + y^2 + z^2)^{1/2}$ なので、

$$\nabla r = \frac{1}{2}(x^2 + y^2 + z^2)^{-1/2} \left(\mathbf{i}\frac{\partial}{\partial x} + \mathbf{j}\frac{\partial}{\partial y} + \mathbf{k}\frac{\partial}{\partial z} \right) (x^2 + y^2 + z^2) = \frac{\mathbf{r}}{r}$$

(b) $\nabla \cdot \mathbf{r} = \left(\mathbf{i}\frac{\partial}{\partial x} + \mathbf{j}\frac{\partial}{\partial y} + \mathbf{k}\frac{\partial}{\partial z} \right) \cdot (x\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}) = 3$

(c) $\nabla \times \mathbf{r} = \left(\mathbf{i}\frac{\partial}{\partial x} + \mathbf{j}\frac{\partial}{\partial y} + \mathbf{k}\frac{\partial}{\partial z} \right) \times (x\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}) = 0$

(d) $\nabla \cdot \frac{\mathbf{r}}{r^n} = \left(\nabla \frac{1}{r^n} \right) \cdot \mathbf{r} + \frac{\nabla \cdot \mathbf{r}}{r^n} = -nr^{-n-1}\nabla r \cdot \mathbf{r} + \frac{3}{r^n} = \frac{3-n}{r^n}$

問 2: 行列を A , 固有値を λ , 固有ベクトルを \mathbf{u} と書くと、

$$A\mathbf{u} = \lambda\mathbf{u}$$

の関係がある。

$$(A - \lambda E)\mathbf{u} = 0 \quad (\text{ここで } E \text{ は単位行列})$$

より、行列式 $|A - \lambda E| = 0$ を固有値は満足する。この問題では、

$$\begin{vmatrix} 1 - \lambda & 1 & 0 \\ 1 & -\lambda & 1 \\ 0 & 1 & 1 - \lambda \end{vmatrix} = 0$$

なので、行列式の計算をすれば、

$$-\lambda(1 - \lambda)^2 - (1 - \lambda) - (1 - \lambda) = 0$$

となり、その解は、 $\lambda = 2, 1, -1$ である。

固有ベクトルは

$$(1 - \lambda)u_1 + u_2 = 0, \quad u_1 - \lambda u_2 + u_3 = 0, \quad u_2 + (1 - \lambda)u_3 = 0$$

を満足するので、 $\lambda = 2, 1, -1$ 、それぞれに対応する固有ベクトルは、

$$\begin{pmatrix} 1/\sqrt{3} \\ 1/\sqrt{3} \\ 1/\sqrt{3} \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1/\sqrt{2} \\ 0 \\ -1/\sqrt{2} \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1/\sqrt{6} \\ -2/\sqrt{6} \\ 1/\sqrt{6} \end{pmatrix}$$

となる。なお、ここでは、固有ベクトルは $|\mathbf{u}| = 1$ となるように規格化しているが、規格化していなくても正答である。

問 3:

(a) $\frac{dx}{dt} + x = 1, \quad x(0) = 0$

解答例 1) $x = 1$ を代入すると、左辺は 1 になる。したがって、 $x = 1$ は特解である。同次解 (右辺がゼロの方程式の解) は定数係数の微分方程式なので、 $c e^{bt}$ の形をしている (ここで、 b, c は定数)。この解の形を同次方程式に代入すると、 $b = -1$ であることが分かる。したがって、この同次解と特解の和、 $x = 1 + ce^{-t}$ がこの微分方程式を満足することは明らか。初期条件 ($x(0) = 0$) を満足する c は $c = -1$ なので、

$$x(t) = 1 - e^{-t}$$

が解。

解答例 2) 両辺を微分する。その方程式の一般解は、 $dx/dt = ae^{-t}$ となる。 $x(0) = 0$ より $dx/dt|_{t=0} = 1$ なので、 $a = 1$ 。これを $t = 0$ から t まで積分し、 $x(0) = 0$ の条件を用いる。

(b) $\frac{dx}{dt} + x = \sin t, \quad x(0) = 0$

解答例 1) まず、特解を求める。右辺は $\sin t$ で変化する。したがって、左辺も $\sin t$ で変化しなければいけない。そのものが \sin であったり、微分して \sin であるものは、 \sin と \cos と $t \sin$ である。したがって、特解は

$$x_p = a \sin t + b \cos t + c t \sin t$$

の形をしている。代入すれば、

$$a \cos t - b \sin t + a \sin t + b \cos t + c \sin t + c t \cos t = \sin t$$

なので、 $a - b + c = 1, a + b = 0, c = 0$ となり、 $x_p = \frac{1}{2}(\sin t - \cos t)$ 。同次解、 $d e^{-t}$ を加えて、初期条件を満足させれば、

$$x(t) = \frac{1}{2}(\sin t - \cos t + e^{-t})$$

解答例 2) 定数変化の方法を用いる。同次方程式の解は ce^{-t} である。この c が t の関数であるとして、元の方程式に代入すると、

$$\frac{dc}{dt} = e^t \sin t$$

となる。したがって

$$c(t) = c_0 + \int_0^t e^\tau \sin \tau d\tau = c_0 + \frac{1}{2}e^t(\sin t - \cos t)$$

で、解は、初期条件 $x(0) = 0$ を用いて、

$$x(t) = c(t)e^{-t} = \frac{1}{2}(\sin t - \cos t + e^{-t}).$$